

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5839498号
(P5839498)

(45) 発行日 平成28年1月6日(2016.1.6)

(24) 登録日 平成27年11月20日(2015.11.20)

(51) Int.Cl.

F I

A 4 4 C 5/18 (2006.01)

A 4 4 C 5/18

F

A 4 4 C 5/22 (2006.01)

A 4 4 C 5/22

請求項の数 12 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2012-534783 (P2012-534783)
 (86) (22) 出願日 平成22年10月8日 (2010.10.8)
 (65) 公表番号 特表2013-508055 (P2013-508055A)
 (43) 公表日 平成25年3月7日 (2013.3.7)
 (86) 国際出願番号 PCT/IB2010/002550
 (87) 国際公開番号 W02011/051768
 (87) 国際公開日 平成23年5月5日 (2011.5.5)
 審査請求日 平成25年10月3日 (2013.10.3)
 (31) 優先権主張番号 01629/09
 (32) 優先日 平成21年10月26日 (2009.10.26)
 (33) 優先権主張国 スイス(CH)

(73) 特許権者 511310683
 テアシュイ テクノロジーズ オルロジェ
 ール インダストリエル ソシエテ アノ
 ニム
 スイス連邦 セアシュール 1 2 4 2 サティ
 ニー, シュマン デ レパンダリエ 1 1
 110001302
 (74) 代理人 特許業務法人北青山インターナショナル
 (72) 発明者 レジュ, ジョルジュ
 フランス共和国 エフエールー 7 4 9 7 0
 マリニエ, ルート デ コンベ 2 1 9
 0

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 プレスレット、特に腕時計バンドの伸展性留め金

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

留め金が閉位置にあるときにプレスレットの長さを調整することができるプレスレットの展開バックルを備えた留め金であって、前記留め金が、

第 1 の端部で互いに接続された第 1 と第 2 のリーフ (1 , 2) と、

前記第 1 のリーフ (1) の第 2 の端部に接続され、前記プレスレットの第 1 の鎖に接続されるよう配置されたカバー (3) と、

前記プレスレットの第 2 の鎖に接続するように前記第 2 のリーフ (2) の第 2 の端部に配置された可動端ピース (4) と、

前記プレスレットの長さを調整するためのインデックス手段 (5 , 5 ' , 6 , 6 ') と

10

、
 1 つのインデックス位置から別の位置に前記可動端ピース (4) の移動を可能にするよう配置された解除手段 (7 , 7 ') とを具え、

前記第 2 のリーフ (2) が 2 つの直線レール (8 , 8 ') で終端し、これに沿って前記可動端ピース (4) が摺動可能であり、

前記インデックス手段 (5 , 5 ' , 6 , 6 ') が前記第 2 のリーフ (2) のレール (8 , 8 ') の少なくとも 1 つにあり、

前記解除手段 (7 , 7 ') が前記可動端ピース (4) とともに移動するよう配置されていることを特徴とする留め金。

【請求項 2】

20

請求項 1 に記載の留め金において、前記 2 つの直線レール (8 , 8 ') が前記第 2 のリーフ (2) の側面に沿って配置されていることを特徴とする留め金。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載の留め金において、前記可動端ピース (4) が 2 つの側面 (4 a , 4 b) を具え、それぞれが前記第 2 のリーフ (2) の 2 つのレール (8 , 8 ') の一方と他方の外側面に保持されたフランジ (4 c) を具え、前記可動端ピース (4) の各フランジ (4 c) が対応するレール (8 , 8 ') に沿って摺動可能であることを特徴とする留め金。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の留め金において、前記インデックス手段 (5 , 5 ' , 6 , 6 ') が 2 つのレール (8 , 8 ') の少なくとも 1 つの内側面または前記レール (8 , 8 ') の底面あるいは頂面に沿って配置された刻み目部分 (5 , 5 ') を具え、前記インデックス手段 (5 , 5 ' , 6 , 6 ') がさらに前記可動端ピース (4) に固定された少なくとも 1 つの係止要素 (6 , 6 ') を具え、前記係止要素 (6 , 6 ') がインデックス位置で前記レール (8 , 8 ') の刻み目部分 (5 , 5 ') に保持されるように復帰手段 (9) に支配されており、前記プレスレットの長さが調整されるときに前記可動端ピース (4) が 1 つのインデックス位置から別の位置に 2 つのレール (8 , 8 ') に沿って移動するのを可能にするため、解除機構が作動されるときに前記係止要素 (6 , 6 ') が前記レール (8 , 8 ') の前記刻み目部分 (5) から解放されることを特徴とする留め金。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の留め金において、前記レールもしくは複数のレール (8 , 8 ') の刻み目部分 (5 , 5 ') が鋸歯で作製された鋸歯要素である一方、対応する刻み目部分 (5 , 5 ') と接触するよう設計された前記係止要素 (6 , 6 ') の面が適合した形の歯を具え、前記鋸歯要素が方向づけた刻み目部分 (5 , 5 ') の鋸歯で作製されており、これにより解除機構 (7 , 7 ') を作動することなく、前記プレスレットの長さを低減することができることを特徴とする留め金。

【請求項 6】

請求項 4 または 5 に記載の留め金において、前記インデックス手段 (5 , 5 ' , 6 , 6 ') が前記 2 つのレール (8 , 8 ') の一方と他方の内側面に沿ってそれぞれ配置された第 1 と第 2 の刻み目部分 (5 , 5 ') と、前記対応するレール (8 , 8 ') の各刻み目部分 (5 , 5 ') にそれぞれ接触するよう配置された 2 つの係止要素 (6 , 6 ') とを具えることを特徴とする留め金。

【請求項 7】

請求項 4 , 5 または 6 の何れか 1 項に記載の留め金において、前記解除手段が可動要素 (4) の一方と他方の側面 (4 a , 4 b) のフランジ (4 c) にそれぞれ配置された第 1 と第 2 のボタン (7 , 7 ') を具え、各ボタン (7 , 7 ') が対応する係止要素 (6 , 6 ') に接続されており、スロット (10) が前記第 2 のリーフ (2) の各レール (8 , 8 ') に沿って配置され、これによりプレスレットの長さが調整されるときに前記ボタン (7 , 7 ') がそれぞれのスロット (10) に沿って摺動できることを特徴とする留め金。

【請求項 8】

請求項 1 ~ 7 の何れか 1 項に記載の留め金において、前記カバー (3) が前記留め金を掛けるための掛金手段を有し、前記掛金手段が前記留め金を開けるための前記カバー (3) の側面に配置された 2 つの更なるボタン (12 , 12 ') と、各ボタン (12 , 12 ') の底部に接続された湾曲部 (12 a) とを具え、各湾曲部 (12 a) が各レール (8 , 8 ') の端部に配置された対応する部分 (16) の下に配置されるよう設計されていることを特徴とする留め金。

【請求項 9】

請求項 1 ~ 8 の何れか 1 項に記載の留め金において、前記可動端ピース (4) がスライドスルーアセンブリであり、前記プレスレットの鎖の 1 つの穴の 1 つに挿入されるよう設計された舌部 (11) を具えることを特徴とする留め金。

【請求項 10】

請求項 1 ～ 8 の何れか 1 項に記載の留め金において、前記可動端ピース（4）が前記ブレスレットの鎖の 1 つの第 1 の連結金具を形成することを特徴とする留め金。

【請求項 11】

請求項 1 ～ 10 の何れか 1 項に記載の留め金を具えるブレスレット。

【請求項 12】

請求項 11 に記載のブレスレットを具える腕時計。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

10

本発明は、特に腕時計のブレスレットの分野に関する。本発明はさらに、特にブレスレットの長さを精密に調整することができる展開バックルを備えたブレスレットの留め金に関する。

【背景技術】

【0002】

展開バックルを備えた留め金は、それらの審美的な外観で周知である。これらの留め金は、大抵、連結金具で作製されたブレスレットに連結される。この場合、ブレスレットの長さは通常、着用者の手首のサイズによって 1 以上の連結金具を追加あるいは除去することによって小売業者で調整されている。この調整は通常最終的なものであり、外気熱および / または着用者によってなされた努力による手首の周囲長の違いを考慮していない。しかしながら、手首の寸法は気温が低いか、あるいは高いかによって変化するので、大抵その調整を行うことが必要であることが分かっている。できる限り調整を行わないと、夏の高温時にブレスレットが手首を締め付ける場合がある。逆に、冬には、この同じブレスレットが手首の周りで回転しがちである。

20

【0003】

腕時計の着用者が状況に応じて数ミリメートルずつブレスレットの長さを自身で調整することができるシステムを備えた様々な腕時計バンドがある。このような留め金は特に、米国特許第 5 9 2 7 5 7 7 号明細書、特許第 5 9 1 0 8 4 1 1 号公報、欧州特許第 1 7 1 6 7 7 6 号明細書、欧州特許第 1 3 7 8 1 8 5 号明細書、欧州特許第 1 9 4 3 9 1 7 号明細書、欧州特許第 1 9 2 0 6 7 3 号明細書、あるいは国際公開公報第 2 0 0 8 / 0 6 4 9 3 1 号の刊行物に記載されている。

30

【0004】

一実施例として、米国特許第 5 9 2 7 5 7 7 号明細書の刊行物に開示された装置は端部ピースを具えており、この端部の一方がブレスレットの鎖の 1 つの一方の端に接続され、端部ピースの他方端はその側面に沿って配置された様々な開口部で蓋の内側に配置可能なロッドを取り付けられる。この装置の主な欠点は、留め金を開けてブレスレットの長さを調整する必要があるという事実から生じている。

【0005】

特許第 5 9 1 0 8 4 1 1 号公報は展開バックルの留め金に関しており、2 つのリーフが第 1 の端部で互いに接続した第 1 と第 2 のリーフと、第 1 のリーフの第 2 の端部で接続したカバーとを具えており、ブレスレットの第 1 の鎖にカバーが接続されている。実質的に矩形の開口部が第 2 のリーフの長手軸に沿って延在している。この開口部の長手面には、係止手段と接触するように配置された刻み目部分が設けられており、係止手段が展開バックルの支持部に固定され、支持部はブレスレットの第 2 の鎖に接続されている。所望のインデックス位置でリーフ支持部に後者を係止するために、係止手段は、第 2 のリーフの開口部の各刻み目部分の切り込みの 1 つに配置されるよう設計された 2 つの係止要素を具えている。ブレスレットの長さを調整することができるように、係止手段はさらにボタンを具えており、この作動により対応する刻み目部分から各係止要素を解放させることができる。リーフ支持部に対して別のインデックス位置に第 2 のリーフを係止するため、もはやボタンを作動しない場合、各係止要素は一方と他方の刻み目部分の別の切り込みに配置され

40

50

る。米国特許第 5 9 2 7 5 7 7 号明細書の刊行物のように、留め金を開いてブレスレットの長さを調整する必要があり、これが取り扱いを複雑にしている。

【 0 0 0 6 】

欧州特許第 1 7 1 6 7 7 6 号明細書は、ブレスレットの長さを調整する装置を開示しており、これは特に上述した問題を改善するように設計されている。この装置は蓋を具えており、この内部でブレスレットの一方端に接続された端部ピースが摺動することができる。この端部ピースは、解除機構と接触する位置に事前配置し係止するための手段を具えており、ブレスレットを無理に開くことなく、ブレスレットの長さを調整することができる。欧州特許第 1 7 1 6 7 7 6 号明細書の教示によれば、この調整装置は連結金具を備えた剛体のブレスレットに取り付けるよう設計されており、ここではその端部が展開可能な接続リーフを備えた留め金に取り付けられている。したがって、この装置は革あるいは別の柔軟な材料で作製したブレスレットには適しておらず、ここではその鎖の 1 つが舌部が設けられたスライドスルーアセンブリに配置されるよう設計されており、ブレスレットの長さを大雑把に調整する。

10

【 0 0 0 7 】

欧州特許第 1 3 7 8 1 8 5 号の刊行物は、上述した問題を解決する 2 つのリーフを備えた展開バックルの留め金を提案している。この留め金の 2 つのリーフはそれらの端部の一方に互いに接続されているが、それらの端部の他方はブレスレットの鎖の一方に接続されたカバーと、ブレスレットの鎖の他方に接続された可動端ピースとにそれぞれ接続されている。可動端ピースは受け口の内側に配置され、この内側にブレスレットの長さを調整するためのインデックス手段が組み込まれている。これらのインデックス手段は 2 つの係止要素を具えており、受け口の内側壁に沿った鋸歯形の刻み目部分とそれぞれ接触するように配置されている。受け口の外側壁に配置された 2 つのボタンにより、それらを作動したときに刻み目部分から係止要素を解放させ、ブレスレットの長さを調整することができる。

20

【 発明の概要 】

【 0 0 0 8 】

本発明の目的は、様々なタイプのブレスレットの伸展性留め金を提案することであり、これは留め金が閉位置にあるときにブレスレットの長さを精密に調整できるという利点を有し、連結ブレスレットあるいは革製ブレスレットに容易に取り付けるよう適合することができる。

30

【 0 0 0 9 】

本発明によれば、この目的がブレスレットの展開バックルを備えた留め金によって達成され、留め金が閉位置にあるときにブレスレットの長さを調整することができる。この目的のため、留め金は、第 1 の端部で互いに接続された第 1 と第 2 のリーフと、第 1 のリーフの第 2 の端部に接続され、ブレスレットの第 1 の鎖に接続されるよう配置されたカバーと、ブレスレットの第 2 の鎖に接続するために第 2 のリーフの第 2 の端部に配置された可動端ピースと、ブレスレットの長さを調整するためのインデックス手段と、1 つのインデックス位置から別の位置へ可動端ピースの動作を可能にするよう配置された解除手段とを具える。第 2 のリーフは 2 つの直線レールで終端し、これに沿って可動端ピースが摺動することができる。インデックス手段は第 2 のリーフの複数のレールの少なくとも 1 つにある一方、解除手段は 1 つのインデックス位置から別の位置へ可動端ピースとともに移動するよう配置されている。

40

【 0 0 1 0 】

この留め金の特徴は、単純で、審美的で、確かな構成という利点を得ることができるとともに、即時で、満足のいく、精密な長さ調整を可能にすることである。

【 0 0 1 1 】

さらに、可動端ピースは舌部が設けられたスライドスルーアセンブリで構成されていることが有利であり、これにより革あるいは別の柔軟な材料で作製されたブレスレットの鎖の 1 つを受け取るか、連結ブレスレットの連結金具の 1 つを形成する。

【 図面の簡単な説明 】

50

【 0 0 1 2 】

本発明の特徴は、以下の概略図を参照することによって、全く限定しない単なる実施例として与えられた好適な実施形態の記載を読むことでより明確に認められる。

【図 1】図 1 は、本発明の好適な実施形態に応じて腕時計バンドの展開バックルを備えた留め金の分解図である。

【図 2】図 2 は、図 1 の留め金の遠近図である。

【図 3】図 3 は、掛けた留め金の側面図であり、ここでは可動端ピースが第 1 のインデックス位置にある。

【図 4】図 4 は、掛けた留め金の側面図であり、ここでは可動端ピースが第 2 のインデックス位置にある。

【図 5】図 5 は、所定の位置の留め金の側面図であり、ここではリーフが部分的に展開されている。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 3 】

図 1 ~ 図 5 により示した本発明の好適な実施形態によれば、展開バックルの留め金が第 1 の端部で互いに接続された第 1 と第 2 のリーフ 1, 2 を具える。カバー 3 は、その一方で、第 1 のリーフ 1 の第 2 の端部に接続されており、ブレスレットの第 1 の鎖に接続するように配置されている。第 2 のリーフ 2 の第 2 の端部は 2 つの直線レール 8, 8' (図 2) で終端し、これは第 2 のリーフの側面の外延に配置されている。図 2 を参照すると、ブレスレットの第 2 の鎖に接続するように設計された可動端ピース 4 は 2 つの側面 4 a, 4 b を具えており、それぞれが第 2 のリーフ 2 の 2 つのレール 8, 8' の一方と他方の外側面に保持されたフランジ 4 c を具えている。可動端ピース 4 の各フランジ 4 c は、対応するレール 8, 8' に沿って摺動可能である。

【 0 0 1 4 】

ブレスレットの長さを調整するためのインデックス手段 5, 5', 6, 6' と解除手段 7, 7' とは、可動端ピース 4 が 1 つのインデックス位置から別の位置に動くことができるよう配置されている。インデックス手段 5, 5', 6, 6' は、2 つのレール 8, 8' のそれぞれの内側面に沿って配置された刻み目部分 5, 5' (図 1 および図 2) と、可動端ピース 4 に固定された 2 つの係止要素 6, 6' とを具える。各係止要素 6, 6' は復帰手段 9 に固定されており、これによりインデックス位置で各直線レール 8, 8' の刻み目部分 5, 5' に保持される。刻み目部分 5, 5' は鋸歯状の外形を有することが好ましく、一方で適合する形の歯が係止要素 6, 6' の面に切り込まれており、適切な刻み目部分 5, 5' に接触するように設計されている。これらの 2 つの係止要素 6, 6' の各歯が復帰手段 9 の動作で各刻み目部分 5, 5' の切り込みの 1 つに挿入されるとき、位置が割り出される。

【 0 0 1 5 】

図 1 によれば、解除手段は 2 つのボタン 7, 7' を具えており、各々は可動要素 4 のフランジ 4 c にあるハウジング 9 a の内側に配置されている。第 2 のリーフ 2 の 2 つの直線レール 8, 8' にはそれぞれ一方と他方のボタン 7, 7' によって横断される直線スロット 10 が設けられており、これにより各ボタンが対応する係止要素 6, 6' に接続される。可動端ピース 4 の 2 つのボタン 7, 7' の同時押圧により、レール 8, 8' の長手軸に垂直な方向に各係止要素 6, 6' を移動させることができる。この時、各係止要素 6, 6' の歯が対応する刻み目部分 5, 5' から解放され、可動要素 4 が再び 2 つのレール 8, 8' から分離される。次いで、それは 1 つのインデックス位置から別の位置へこれらのレール 8, 8' に沿って自由に摺動することができる一方、各ボタン 7, 7' は直線スロット 10 に沿って摺動する。もはやボタンが操作されない場合、復帰手段 9 により所望のインデックス位置で係止要素 6, 6' に再び係合させることができる。

【 0 0 1 6 】

鋸歯状の鋸歯要素の方向により、2 つのボタン 7, 7' を作動することなく、ブレスレットの長さを短くすることができることに注意されたい。復帰手段 9 によって係止要素 6

10

20

30

40

50

、6'に加えられた力に打ち勝つためには、プレスレットの長手軸に沿って力を加えれば十分である。この実施形態では、各フランジ4cのハウジング9a内の各ボタン7、7'本体の何れかの側面に配置された2つのコイルばね9で復帰手段が構成されている。

【0017】

この実施形態では、可動端ピース4がスライドスルーアセンブリであり、プレスレットの鎖の1つの穴の1つに挿入されるよう設計された舌部11を具える。図示しない変形例では、端部ピース4が連結プレスレットの鎖の1つの第1の連結金具を構成するように構成される。

【0018】

図1によれば、2つの更なるボタン12、12'がカバー3の下に互いに対向して配置されており、それらはカバー3の外側壁にある矩形開口部13を通して突出する。2つのコイルばね14、14'が2つのボタン12、12'の間に取り付けられており、これにより後者は復帰力に支配されている。ガイド要素15は、カバー3内に閉じ込められたボタン12、12'とスプリング14、14'とを保持するためにカバー3の下にねじ留めされており、それらを作動するときボタン12、12'の直線移動を可能にするようにガイド要素15の形状が規定されている。各ボタン12、12'はその下にボタンの直線移動に垂直な平面で方向づけた矩形部分を有し、その端部12aが湾曲されており、これにより2つのレール8、8'の端部にある溝16にそれらの底部部分が配置される。さらに、各湾曲部の底部部分は水平面に対して45度の斜面を具えており、これによりカバー3を押下することによって留め金を閉じることができる。より正確には、各斜面が2つのレール8、8'の各端部の頂部に接触し、かつ圧力がカバー3に加えられるとき、各湾曲部12aの側方移動をもたらし、これにより各溝16の高さに持って来る。次いで、各湾曲部12aがスプリング14、14'の動作で移動し、それらの各溝16に対して上がり、レール8、8'の頂部がストッパとして作用し、これにより留め金を掛ける。その一方、2つのボタン12、12'が同時に押圧されると留め金が開く。

【0019】

インデックス手段5、5'、6、6'は2つのレール8、8'の内側面ではなく、それらの頂面もしくは底面に沿って配置することができる。この構成では、係止要素6、6'がレール8、8'の頂部あるいは底部部分に沿って摺動することができるように配置される。

【0020】

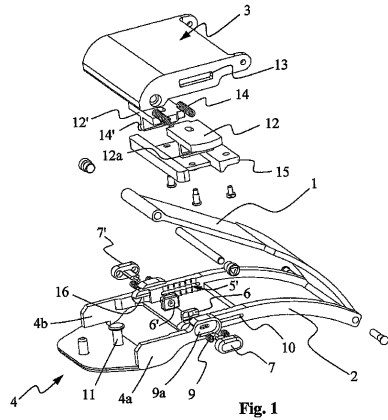
最後に、このプレスレットの留め金は、腕時計に関する用途に特に適合されているが、同様に手首に着ける任意のその他の物に用いてもよい。

10

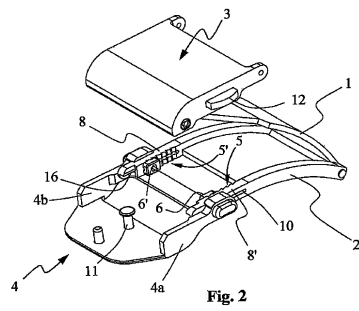
20

30

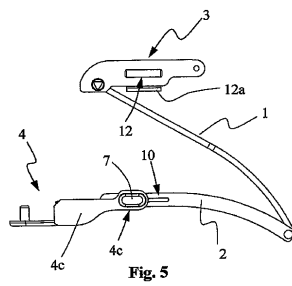
【図 1】



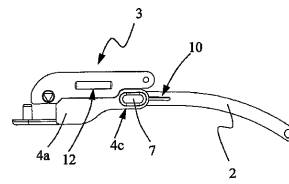
【図 2】



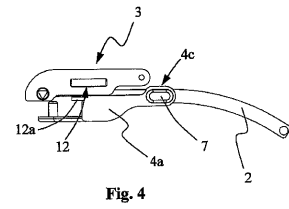
【図 5】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(72)発明者 ジラルド, アルノー

フランス共和国 エフ - 7 4 2 9 0 ヴェリエ デュ ラック, ルート デ ペルーズ 8

審査官 山内 康明

(56)参考文献 特許第 4 1 2 7 5 0 6 (J P , B 2)

特開 2 0 0 0 - 2 7 9 2 1 7 (J P , A)

実開平 0 1 - 1 6 4 8 1 0 (J P , U)

特表 2 0 0 7 - 5 2 1 8 9 2 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

A 4 4 C 5 / 1 8

A 4 4 C 5 / 2 2